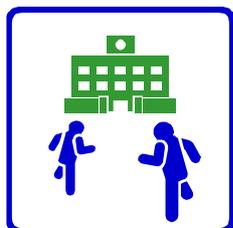
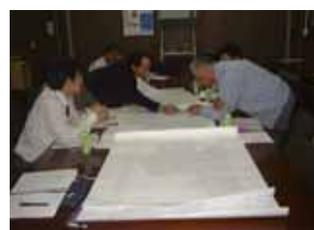


防災マップを作ろう!!

「自主防災」を題材にした防災マップづくりガイド

～ モデル地域自主防災組織による活動報告書 ～



旭川流域連絡協議会

目 次

はじめに	1
本報告の位置づけ	2
防災マップとは	3
防災マップの位置づけ	4
モデル地域の紹介	5
本報告の構成	6
step1 「マップをつくる目的と成果の確認」	7
step2 「作成するグループの結成」	9
step3 「マップづくり用の材料準備」	11
step4 「地域防災に必要な情報の整理」	15
step5 「地図に書きこむ」	17
step6 「地図の清書・印刷・利用」	21
その他「マップをつくる上での支援や事例」	27

はじめに

旭川流域連絡協議会では、流域を構成する団体が緊密に意見交換・交流・連携することによって、「よりよい川づくり、地域づくり」を進めることを目指す中、平成 15 年度より、防災をテーマとし、「流域一体となった防災体制の構築」について検討をしてまいりました。

その一環として、協議会メンバーの河川管理者、各自治体の首長、建設部局関係者をはじめ、防災・保健衛生担当部局を含む約 100 名が参加し開催された、「平成 15 年度 旭川流域の水防災に関する研究会」では、今後の水防災のあり方として、施設整備や様々な予防策を行っていくのは大前提ですが、予測を超える災害が発生した場合、行政だけでは対応が不可能であり、足りない部分を補って被害を最小限にするには、「地域コミュニティによる自主的な活動が不可欠であること。」また、そのためには、「地域全体の防災意識の啓発が重要であること」の 2 点が確認されました。

これを受けて、「地域防災体制の構築に向けての自主防災組織育成」を目指し、平成 16 年度より、地域特性の異なる旭川上・中・下流域各々から、防災について先進的に活動を行っている地域を「モデル地域」として 3 地域(岡山市操明学区連合自主防災会、建部町川口自主防災会、真庭市開田自治会)を選定し、「モデル地域の育成・強化支援」の一つとして、「モデル地域における「防災マップづくり」を進めてまいりました。

本報告は、3 地域において実際に経験したノウハウなどをとりまとめ、「防災マップづくり」のヒントとして、今後、各市町村の担当者や自主防災組織のリーダーの方のために、マップづくりの進め方や活動内容等について分かりやすくまとめたものです。

地域における今後の「地域防災体制の構築に向けての自主防災組織育成」をより一層充実させるための参考として活用いただきますようお願いいたします。

旭川流域連絡協議会とは・・・
河川行政施策や川を活用した地域づくりなどについて、平素から旭川流域内の 3 市 6 町 1 村、岡山県及び国土交通省が緊密に意見交換を行うとともに、旭川流域内の交流、連携並びに旭川流域に関する情報の発信を行っています。

委員構成

市 町 村	
岡山市 市長	久米南町 町長
瀬戸町 町長	美咲町 町長
赤磐市 市長	真庭市 市長
吉備中央町 町長	新庄村 村長
建部町 町長	鏡野町 町長

岡山 県
土木部 河川課長
備前県民局 建設部長
美作県民局 建設部長

国土交通省
岡山河川事務所 事務所長

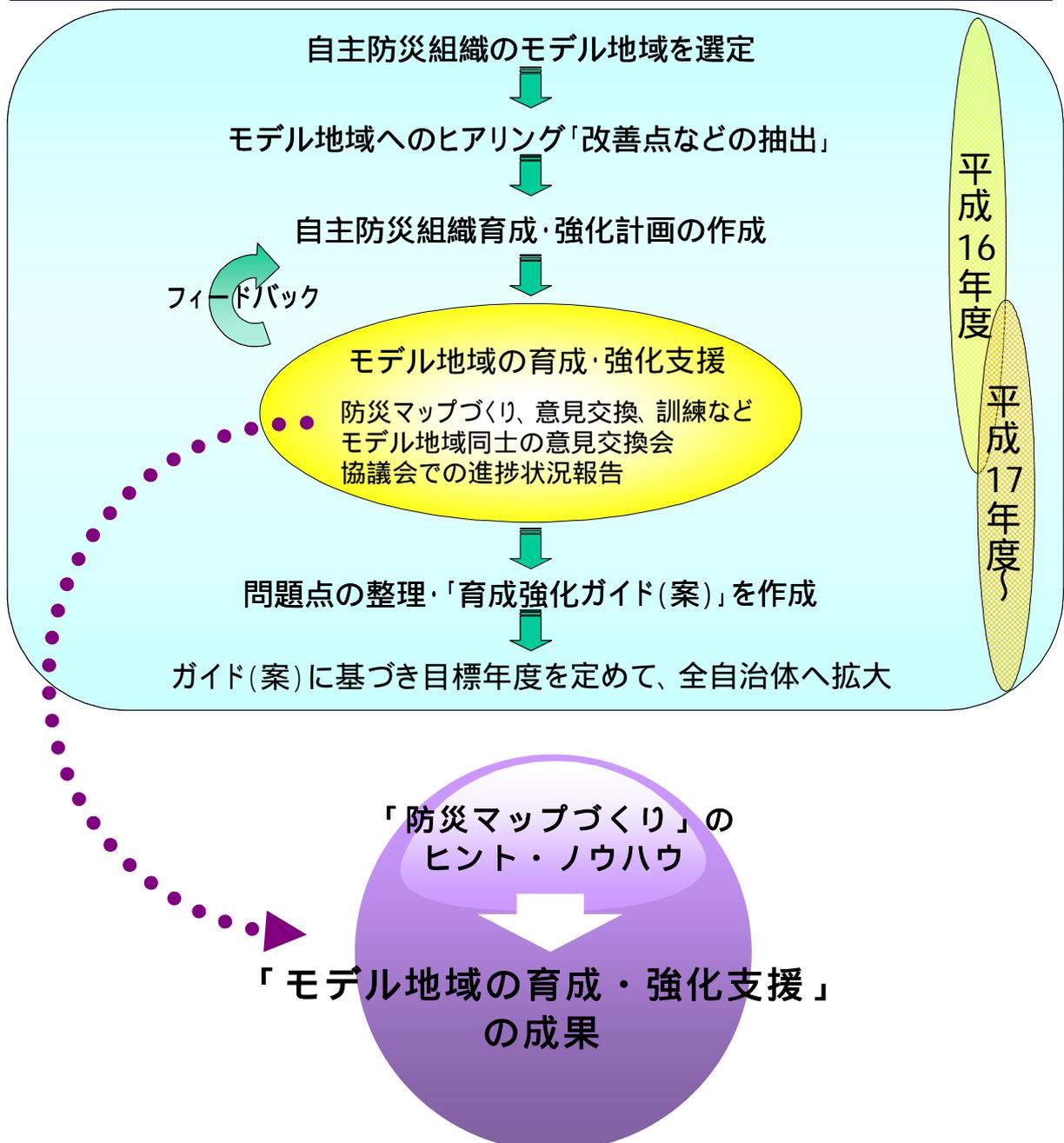


本報告の位置づけ

「地域防災体制の構築に向けての自主防災組織育成」の一環として取り組みを進めた「モデル地域の育成・強化支援」成果です。

「地域防災体制の構築に向けての自主防災組織育成」の一環として、地域特性の異なる旭川上・中・下流域各々から、防災について先進的に活動を行っている地域をモデル地域として3地域（岡山市操明学区連合自主防災会、建部町川口自主防災会、真庭市開田自治会）を選定し、取り組みを進めたことにより得られた、「モデル地域の育成・強化支援」成果の一つとなります。

地域防災体制の構築に向けての自主防災組織育成フロー



防災マップとは

「防災マップ」とは、地域内で災害時に役立つものや危険なものなどを地図上に書き込んだものです。

自主防災活動を進めるうえで、災害が発生した時に、慌てず冷静に素早く適切な対応ができるようにするためにも重要な道具といえます。

「防災マップ」とは、地域内で災害時に役立つものや危険なものなどを地図上に書き込んだものです。

「防災マップ」には、一般的に次のような情報を盛り込むことが考えられます。

《「防災マップ」に盛り込む情報（一例）》

いざという時に役立つ物

学校、公園、資材置き場、公共施設、避難場所、防火用水、医療施設など

災害が発生した場合、危険な物や場所

過去の被災箇所、狭い道、がけ地、古いブロック塀など

避難行動

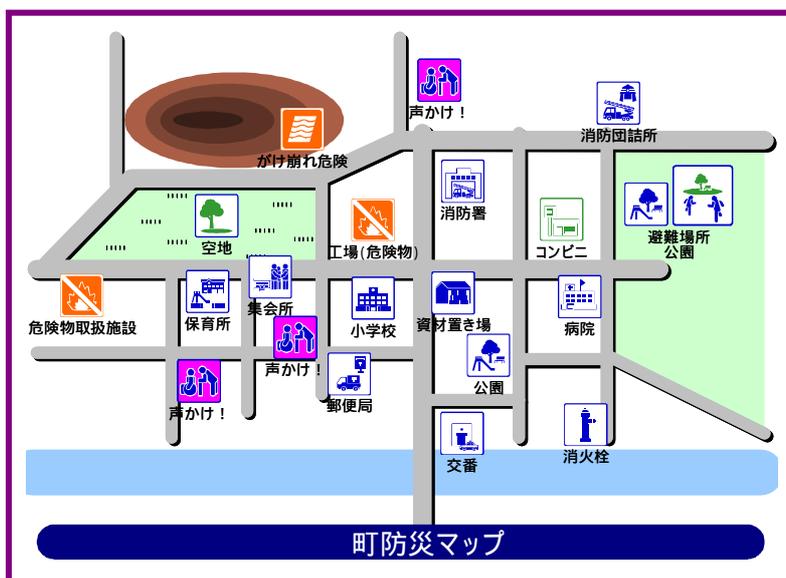
災害時要援護者の把握、避難路の確認など

このような地域の情報は、「何となく知っている」という方も多いと思います。

しかし「いざ」という時には、「何となく」では本当の力にはなりません。

「防災マップ」は、こうした地域の情報をみんなで共有し、自主防災活動を進めるうえで、災害が発生した時に、慌てず冷静に素早く適切な対応ができるようにするためにも重要な道具(ツール)といえます。

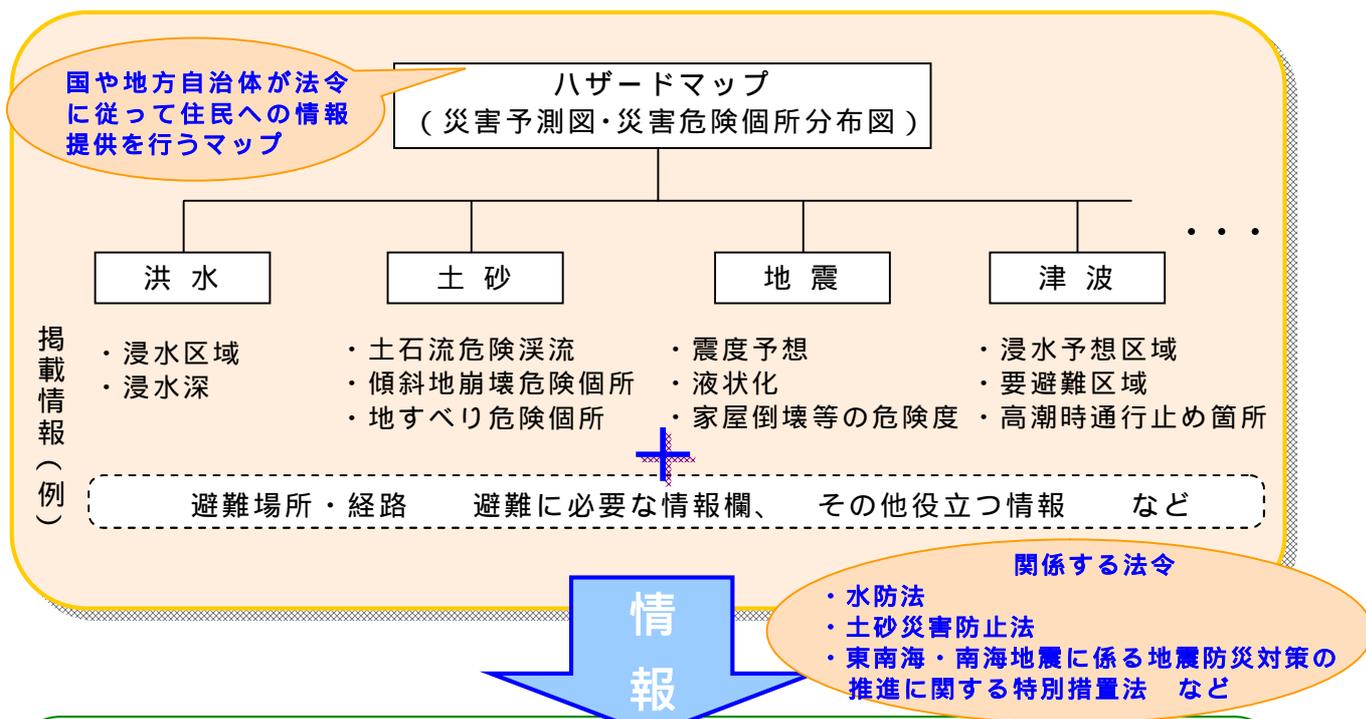
防災マップのイメージ



防災マップの位置づけ

「防災マップ」は、行政が法令等に基づいて作成するハザードマップ等とは位置づけが異なります。

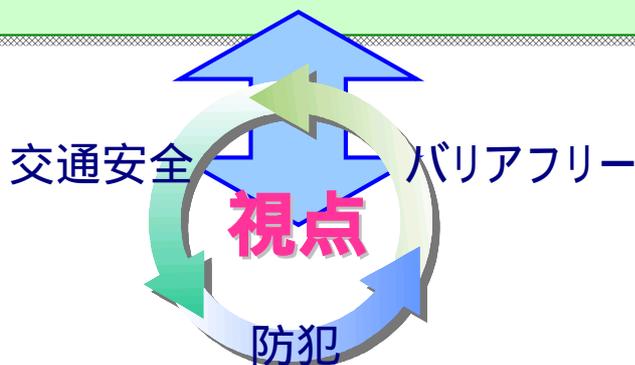
行政からの防災情報を活用し、災害のみにとどまらず、今後は地域の安心・安全を実現するためのマップとしても位置づけられます。



防災マップ

国などの法令に基づかずに、自治体の協力を得ながら、地域住民が主体となって、作成するマップです。

自治体が提供するハザードマップなどの情報を参考にしながら、地域の実状に応じ、必要な防災情報（避難場所・経路、災害時に役立つもの、危険な場所）などを掲載するマップです。



防災マップは、今後災害のみにとどまらず、安心・安全なまちづくりのための要素も加えた（安全・安心マップ）としても位置づけられていきます。

モデル地域の紹介

自主防災組織として先進的に活動を行っている「モデル地域」として選出された3地域の様子を紹介します。

岡山市操明学区連合自主防災会

～三方を水に囲まれ、用水が縦断する低平地～

【構成員数】

約 2,230 世帯（13 単位自主防災会：約 7,000 人）

【地区の概要】

- ・学区内の単位町内会（単位自主防災会）が集まった連合自主防災会として、隣の町内会が被害を受けた場合、周辺の町内会が支援を行うなど、**学区全体で災害に対応する気運が盛り上がっている地域**です。
- ・町内会ホームページへの防災情報掲載、地区の運動会の応援用テントに自主防災会のテントを使用、ウォーキング大会コースに地区内の危険箇所等を組み込むなど、防災意識の高揚に努めている地域です。



建部町川口自主防災会

～上流に旭川ダム・地域内には旭川の支川誕生寺川～

【構成員数】

約 220 世帯（約 680 人）

【地区の概要】

- ・昭和 9 年、20 年、47 年、平成 10 年で水害経験を持つ地区で、浸水しない高台に公民館や消防機庫が整備されるとともに、**過去の水害体験から地区住民と消防が連携した防災対応の仕方ができあがっている地域**です。



真庭市（旧落合町）開田自治会

～背後に山地、地区内を用水が縦断する地域～

【構成員数】

約 80 世帯（約 250 人）

【地区の概要】

- ・平成 10 年台風 10 号以降、当時の反省から土のう袋、土砂の備蓄を行い、消防団全員が土のう作りの講習を受けるなど**積極的な防災対応を進めている地域**です。また、高齢者の把握ができており、両隣 2 軒で協力して支援を行うようにし、日頃から家の灯りを気にするなど**地域のつきあい、助け合いが行われている地域**です。



本報告の構成

本報告書は、実際に各「モデル地域」が取り組んだ「防災マップづくり」を6つのステップに分けて、それぞれの段階における「ヒント」や「ノウハウ」を整理します。

各ステップにおいて、実際にマップづくりに取り組まれた方々の感想など「生の声」も併せてまとめています。



防災マップの完成